

思い出の記



(S 37) 福家 義夫

60周年記念おめでとうございます。昭和30年代を追想していたら、OB各位が待ち望んでいた、吉報が舞い込んで来ました。この吉報から書かして頂きます。5月13日の春季リーグ戦2部優勝おめでとう。この長い期間みんなが待ち望んでいた勝利が選手諸君の奮闘により、試合ごとにどんどん勝ち進む状態を目の当たりに見て興奮しました。特に今回の優勝という、みんなの悲願が達成された事に感動しています。これも選手諸君の努力によって、栄えある優勝が出来た訳です。当然選手を指導された横山総監督、安田監督、山本コーチ、比与森コーチの並々ならぬ苦勞があったればこそ、優勝を遂げる事が出来た訳です。我々、役員一同感謝しております。今回の優勝で、60周年記念という日に、花を添えることが出来、本当に感謝を申し上げます。今回の優勝の予知は、昨年感じられました。秋季リーグ戦の後、その時の4年生及び3年生の選手が涙を流したのを見て、恐らく次のリーグ戦では、勝てるかもしれないと、荒武副会長に話をしたら、俺、時間を作り、コーチ等の邪魔をしない様、学生を指導すると言って、今回迄努力が成された事が、優勝の一助となった事に感謝を申し上げます。当然、選手が育成されてきたのも、多くのOBの方々の協力の賜物です。木村先輩も体の具合が良くないのに、わざわざ、東京から高い交通費を使い、学生の指導に来て頂くと共に、選手が、東京に行った時には選手を宿泊させ、又試合会場まで送って頂き、本当にありがとうございました。

ご存命であれば、どれ程喜ばれたかと思うと誠に残念です。又、田邊君も幹事長で、頑張っていたのに、道半ばで病に倒れ、この優勝を見ることが出来なかった事を残念がっているものと思われます。又、一昨年、昨年と、我々の同級生で東京オリンピック金メダリストの市口先生が、後輩のレスリング技術を一日も早く上達さすべく、来阪し指導してくれ、その上、関東の中央大等との菅平合宿にも参加出来るように計らってくれ、学生のレベルアップ向上に努力して貰い、ありがとう。また比与森コーチも貴重な時間を割いて、学生に同行し、指導をして頂き、ありがとう。兎に角、今回の優勝には、色んなOBの方々の力添えがあったればこそと感謝を申し上げます。今回の優勝には、伴教授、横山総監督、安田監督、山本コーチ、比与森コーチにおかれたら、万感の思いだろうと推測致します。特に伴先生におかれたら、一時期の危機にも屈せず、今日迄学生を指導して頂きありがとう。横山総監督、安田監督、山本コーチ、比与森コーチ等有能な方々を育てられた事に、我々OB会役員として、心から、御礼申し上げます。今後、1部リーグのチームとして、維持する為に更なる苦勞が伴いますが、OB会として、松浪会長の基に一丸となって出来るだけ協力させていただきますので、学生の指導を今後ともお願いします。扱、本題の思い出に入るわけですが、その前にOB会の事に就いて、私の分かっている範囲で、書かして貰いますので、多少間違っていると思われますが、ご勘弁下さい。

初代会長の松井さんの時には、OB会の組織らしきものは無かったように思います。確か、慰労会を喜楽別館等で、OBの先輩方が出費されて、学生の慰労をしてくれたと思います。小生が4年生の時、マットに敷くキャンパスを買う為、その資金不足を作る為、その時のマネージャーをしていた松田君が先輩方々のお宅へ寄付のお願いに訪問した事を思い出しました。学生の頃、東京へ試合に行く費用は、全額自己負担でした。故に、東京へ行くのは、私と3年生の山本さん、市口君と3名でした。ローマオリンピック強化合宿に行った時にも色々お互いの意見を交わしたりしました。これが縁で、山本さんとも今日迄、親しくさせて貰い、ゴルフで交流させていただいています。山本さん卒業の後は、市口君と小生2名で東京へ行っていましたが、その費用は全額自己負担でした。学校から部への援助金はAクラスで10万円位だったと思います。だから、合宿はお金の掛からない自衛隊とかお寺に宿泊していました。

卒業してから後、宇賀会長の時、(株)大阪防水建設社でOB会があり、年会費の金額について、話がなかなか纏まらなかった事を覚えています。現在特別基金として、1070万円預金して保有していますが、そのお金を集めた目的は、その頃、利息が高かったので安定した資金を学生の援助金に使う目的で、現名誉会長の清谷さんと柏木さんが中心になって、初代の松井さんを筆頭(300万円)に2代目会長の宇賀さん以下、OB各位から集められたお金です。現在寄付された方々の内、何名かが、物故者になられている為、我々後輩は先輩の意思を継いで、後世迄、特別基金を守る義務があると思われる。現在、皆さんご承知の様に、金利が安い為、利息が微々たるものです。それ故、松浪会長が運用方法を検討する委員会を佐藤副会長に「指示されています。尊いお金である為、後々迄大事に育て、上手に運用し、現役の一助に役立つ様、お互

いに努めましょう。現在のOB会は、組織として、漸く形が出来つつあります。この組織体も各時代の会長及び幹事長の努力の結果と、OB各位のご協力によるものと思われれます。清谷会長の時には、そのブレーンの方々の協力により、又西協会長の時には、中川幹事長他OB各位の協力により、今日の土台を作られ、3年程前に、37年卒業の我々に、清谷名誉会長、西協会長から、次期会長を選出する様に指示され、現会長の松浪啓一氏を説き伏せ、小生と荒武光也氏が副会長で協力すると共に、長い副幹事長で各歴代の会長に仕えた神谷和巳君と西協会長の下で副会長をしていた高田勝三君の2名が会計監査として残り、計4名で松浪会長の任期中補佐をする事になりました。そして、田邊君に幹事長を引き受けて貰い、西山君に(現幹事長)にも副幹事長を依頼、そして、丹司君、佐藤君に副会長を依頼、平池君にも引き続き会計を依頼そして他のOB各位にも、種々の役を引き受けていただいています。特に北川俊治君におかれては、体育OB会の理事長という要職で頑張ると共に、レスリングの為に陰日向なく、松浪会長の下で動いてくれ、大変助けられています。荒武副会長も体育OB会の理事会に休まず出席され、レスリング部の存在を示しています、又、佐藤副会長は関大レスリング部の将来の布石の為、寝屋川レスリングを育成され、毎週土曜日には関大フォーラムに子供を車で連れて行き指導されている事に感謝を申します。又、同じく石井克周、横山総監督、山本コーチ、安田監督、比与森コーチ等が、努力されている関係で、10年後には、この子供達が、関大に入学され、レスリング部に入部される事を期待しています。皆さん、ご苦労様です。

松浪会長は、泉佐野市市議会議長及び大阪府議会議員の要職を経験された実力者であっただけ、後輩の各OBに責任を持つ要職を与え、後輩がOB会で各自の力量を発揮出来る様、計っているかと思われれます。

佐藤副会長には、特別基金1070万円の運営委員長になって貰い、彼が寝屋川市役所の部長職の経験を生かし、良い提案が具申されると期待しています。現在丹司副会長が中心になり、西山幹事長と協力されながら、60周年記念の委員会を何回も開き、今回の総会及び式典が催される運びとなりました。お礼を申し上げます。又、我々OB会の役員会並びに総会の会場を安い費用で使用出来る様、努力をして頂いている倉橋OBにも感謝致します。何はともあれ、西山幹事長には仕事で業務が忙しいにも拘らず、今回の幹事長という大役をこなして頂きありがとうございます。特に今回は従来に比べ、委員会の回数が多いのにそつなく資料を作成され、会議の運営を無難にこなして頂き、松浪会長以下37年卒の我々は大変助かっています。松浪会長はいつも我々同期に、西山幹事長の存在が無かったら、我々は会議を運営するのが、大変だったと思うと常々口癖の様に言っています。その通りだと考えます。田邊前幹事長から生前、封筒を各OBに発送する作業が大変だという話を聞いていたので、西山幹事長の努力に頭が下がる思いです。本当にありがとうございます。この結果OB会の役員が一つになって運営される様になり、OB会長を中心にテーマを各々の役員が意見を述べ、結論を会長が決めるという民主的な会議が出来る様になり、若いOBも集まりリーグ戦等の応援に駆けつけ結束して応援している姿を見ると、これからのOB会とレスリング部に対し、明るい展望が期待出来ます。又、OB会費が健全な状態に維持できる様努力された西脇前会長にも感謝しています。後一年弱の役員の任務は、次期役員引継ぎ迄努力する所存ですので、今後共OB各位のご協力をお願いします。

扱、小生が関大レスリング部へ入部したのが、昭和33年4月初旬でした。レスリングの基本的な知識は殆ど知らない状態でした。但し、小さい頃からよく喧嘩をしてお

り、格闘技は、小学校の高学年から空手を習い、中学校の2年位から柔道を金光（明治神宮初代優勝者）道場に通り、その後関西高等学校（3年生の時、インターハイ団体8位入賞）の選手として活躍、但し、現在の様に体重制が無かった時代です。それで柔道の先生の勧めで岡山県のレスリング国体予選に出場し65kg級で優勝、そして静岡国体に出場、1本背負い投げで準々決勝迄進むが、相手が逃げるのでつい相手を再三蹴飛ばしたり、バックから首を締めたりして失格となりました。それを反省し大学に入ってからタックルを基本とすべく努力するが、なかなかタックルが習得出来なくて苦勞しました。私の入部は初代会長の松井さんの勧誘によるもので、その頃の私のレスリングの力量は皆無でした。入部した時の主将は西脇さんで副将は森川さん（卒業後、浪商の先生となる）他3年生には、住本さん（板東英二さんの義兄）、山本さん、岸上さん、三好さん（マネージャー）他、2年生には中川さん（西脇前会長時の幹事長）、神谷（我々37年卒と同級生となり、OB副会長を数年勤め、現在監査役）他と我々同級生の入部を順に書きます。森（ミドル級全日本学生3位となる）その後小生と練習中腰を痛め3年生の時退部、その後（体育会本部に所属）その後、松浪（現OB会長）、松田（現在、泉佐野市で材木店を経営）が入部、そして市口（東京オリンピック、グレコローマンスタイル、バンタム級優勝）、高田、荒武他4名が入部、1年生が10名で総勢26名の部員で、西脇主将を中心として日々厳しい練習の結果、市口の才能が伸び、3年生の時グレコローマンスタイルバンタム級で日本で優勝し、ローマオリンピック出場。その後の努力の結果、映えのある戦績を上げ、皆さんがご承知の通り東京オリンピックで金メダルを獲得。その翌年、世界選手権でアメリカで優勝。その市口を育てた西脇さんは、昭和34年3月に日本選手の代表として八田会長、笹原コー

チの下に青木広影（後にアメリカで話題になったロッキー青木）他総勢12名でアメリカに渡り活躍された話しを後日お聞きし、すばらしい先輩だなと感動しました。特に習字は日展に出展された方に師事されただけに、とても羨ましく思います。因みにアメリカでの戦績ですが、太平洋岸南西地区選手権サンディエゴバンタム級優勝。オクラホマステイルフォーターで、フリースタイルフェザー級優勝。そしてグレコローマンフェザー級2位という輝かしい戦績の話をお聞きし驚嘆しました。特に太平洋戦争が終わって13年め位の時代で戦勝国アメリカで戦い、その当時勝利する事は大変だろうと思われまふ。その時代、1ドルは360円でしたし、日本円の貨幣価値が低い時代であったので、ご両親も大変だった筈です。そのご両親の期待に応えられた先輩はすばらしい方だと思われまふ。他の先輩も多く活躍された事は、青春のパライストラ（50年史）に書かれていますので、今回は省きます。

おもしろい話を清谷さんからお聞きしました。清谷先輩がヘルシンキライト級2位の笠原氏と戦い、笠原選手が怪我をし、不戦勝となったそうです。兎に角、先輩方が活躍された話は入部後お聞きしました。練習場は、一面を柔道部とレスリング部が交互に使用し、その隣の一面のフロア部分を剣道部と体操部が交互に使用、時々ボクシング部が使用しているのが見受けられました。現在の体育館と比較したら半分以下です。当然練習の時は、畳の上にサンドバッグに使っている布地と同じ硬さの帆布である為、初めてこのキャンパスの上で練習すると、寝業の時必ず肩とか肘部分、そして顔などが擦り剥けたりしました。又、何枚もの布で一続きに繋いでいる為、継目の糸がよく切れ、練習後下級生の1、2年生で太い糸で縫い合わせたりした時に、2年生とよく会話をする様になり親しくなりました。又、試合とか合宿の時、このキャン

パスを肩に担いで運ぶわけですが、同級生から、お前は体が我々より大きいし、力も強いから運ぶように言われ、仕方なく運びましたが、夏は汗で重くなっている為まいりました。現在の様に自動車が用意出来ない為、バスや電車を利用して運んだものです。昭和27年頃卒業の先輩方はマットとキャンパスが無いので芝生とか畳の上で練習されたそうです。又、現在の様な立派なバーベル等が無い為、小型のトロッコの車輪をバーベル代わりにして、上げたり下げたりしていました。高校時代の柔道部の時もそうでした。今の時代に比べ、この頃は人件費が安かったのですが（小生の高卒の同級生が本町に就職した当時、住み込みで3千円の給料でした）物価は高かったと記憶しています。因みに私の柔道の師範の金光先生（柔道9段）の時代では、筋肉を鍛える為、バーベル代わりに石を持ち上げて鍛えたそうです。

この時代の日本のスポーツ指導者は、根性を養うと言って鞭打つ練習が最善方法と考えられていた時代でした。確かにこの様な練習で子供の頃から鍛えられたお蔭で、今日迄仕事で苦難に陥ってもへこたれない人間に育つことが出来、感謝しています。市口君は大学2年の半ばに、自己に無理しない練習でないと駄目だと言って、合理的な練習をしていました。怪我をしない様、無理な練習を行わず、一つの技の反復練習をし、スパーリングでその技を使い完全に習得してから試合に臨んでいました。そして試合が近づくと、体と技の調整をしていました。自宅では常日頃、体を鍛える為にロープに登り、バーベル（手製）運動、ランニング等を行ったそうです。私が怪我（肋骨にひび）をしていたにもかかわらず、リーグ戦に出て、近畿大学の選手をタックルで持ち上げた時、肋骨を骨折。試合を中断したらOBの方から続行する様に言われ、仕方なく続行しようとしたら市口君に、福家よ、今の試合より将来の事を考え中止す

べきだと助言され、試合を放棄しました。市口君は私に比べ、無理をせず合理性を考え行動する人間です。それ故、オリンピックで優勝する事が出来たと思われま。この試合後、2ヶ月間練習をしない様医者に言われていましたが、日米対抗戦の選手に選ばれ、大阪府立体育館で世界選手権5位のロドリゲスと試合をしました。その結果、骨折した部分が突出した状態で固まった為、この部分が当たると痛み、この様な無謀な行動は慎むべきと大いに反省しています。社会に出たらよりいっそう慎重に行動しないとやりなおしがきかない事に気づきました。しかし行動を起こさなければ何も得られません。

話を元に戻しますが、1、2年の頃の夏季合宿で徳島県池田市のお寺に泊まり、池田高校で練習をしました。練習帰りに吉野川で泳ぎ、腰にバスタオル一枚を巻いて宿泊先に帰った写真が残っています。又、夜風呂屋へ行くと、男性と女性との脱衣場を遮る板の遮蔽物があるのですが、天井から大きな団扇がぶら下がっていて、紐を引くとバサバサ音がして、遮蔽物の低い板が大きく揺れて女性の脱衣場が見える。そして帰る時、女性の浴場の中が大きな窓を通して道路から丸見えだった。又、神谷君と高田君が、夜から朝方迄マラソン競争を行い、お互い負けず嫌いの性格を表した感じです。

春休みの淡路島洲本市での合宿の時、山頂までうさぎ跳びで上がられ、砂浜では五人ずつのランニング競争をやらされ、最後の人は再度競争に参加させられた砂浜の競争は、足腰にこたえました。この練習には、34年から入学する伴義孝君（現教授）が練習に参加していました。スパーリングの時の彼は、負けず嫌いの片鱗をタックルの時に表していました。同級生の松浪君（現OB会長、大阪府レスリング協会会長）はブリッジをしている時、お尻を木村先輩に足で押され、首を捻挫し曲げる事が出来なくなっていたが、それでも練習を休まず行っていました。荒武君（現副会長）も入部当時関大一高で柔道部に所属との話でしたが、腹が少し出ていた為、ランニングには苦勞していました。休まず頑張っ練習をした結果、フライ級に出場出来る体重までスリムになりました。負けず嫌いの人間同士が今日迄付き合いが出来たのも、お互いに自己主張はするが最後には必ず協調して行動したからです。今後も従来どおり仲良くお付き合いをしていきたいと思っております。年齢もお互い70歳近くなりますが、70周年記念には元気な姿で仲良く参加できる事を楽しみにしていきます。きりが無いのでこの辺りで筆を擱かせて頂きます。ありがとうございました。